

# C'est très bon! Vol. 138, Boulangerie ～おいしいパンの通信～

C'est TRÈS BON  
2015. 12. 27

日本に戻って11月数軒の不動産をポイントとし、パン屋物件  
(パン屋を始めるための)を探して見つけた。11月の休みの毎にパリからパリまで歩いて、歩いて  
パン屋の物件を見てまわった。実際にビジネスとして具体的に店の中を見学(今の木立立合いの店と)  
この店を見た。その中で探した店を2つを考えた。日本とは違うパン屋の商業権を置く。パン屋を  
始める(おまけにこれ学ぶ。その中で果たして自分はどうしたのか、いくつ物件を探したか)  
て、パン屋のパン屋として、新しくパン屋をやるのか、またもまたパン屋の商業権を置くのか、自分で  
やるのか、共同経営者とするのか、... 何度もうたお世話になっているメテリオンに相談してみた  
彼が言ったことなごらなさい。考えたことは、今年で金返すのはおぼろしい、とちろ、... 手には  
言えない。いろんな人がその人の意見を言ったけれど、決めるのはおぼろしい。共同経営者として  
会社の社長も何度も言合はる率直に話し合いました。その11月の末、その中ある  
提案を受けました。フランスのパン屋の経営は複雑で簡単ではない。もとの時間をかけよりリスカ  
少ないスタイルでやっていこうと決めました。パリにある会社の経営者もパン屋を  
2年くらい運営に経験を持って、自分自身もやるかどうか、まずは自分から始めて  
みるかと言った。どう?と言ったので、いいアイデアだと思うと答えた。  
その時に、いつまで準備はできる?と聞かれたので、はいと答えた。その  
2週間後、手はパリからパリに引越して1日区、パン屋の責任者として働き  
始めました。あまりに動きが早くないですが、... 置いておいたそのころには急展開  
していった。パリに行くことが決まって1週間後1年3ヶ月働いたパリからパン屋と共に  
働いた店を去ることになった。その1週間後パリから離れることになった。  
短期間のため大変な日々だった。新しいパン屋に慣れみんなと仲間にならざるまで日々  
仕事がいろんな役所の半続きに苦労した。いろんな想いがパリからの大聖堂の壁に  
浸み入り景色とともに思い出された。たった1年3ヶ月の店にいたおぼろしい  
送別会を企画して、バゲットの取り板に書いたみんなの寄せ書きとスカーフと化粧キット  
(手には何かがおぼろしい... がんばって化粧してらしてこれ)までパリから送った。温かく  
送り出してくれた。初めは価値感もいろんな良い悪いの違ふいろんなことがきいた。でも  
あったら、今は仲間として認められ力を合せてがんばって。これも... 経験ができた事は、  
今後何か始める時、最初こそ苦しくて涙を流す日々があったけれど、たのびに  
浸み入り新たなうたお世話になる日が来たという自信になりました。  
12月24日の早朝一番の朝の朝の朝 パリからパン屋の仲間が3人も  
がんばって、X-masのX-masをくれた。それは思っていたよりも早くうたお世話になった。

